

礼拝さいこう

第12回全国礼拝音楽研修会の7つのおさそい

教会音楽室長 江原美歌子

- 1. 「礼拝」をともに学びませんか？** 教会の命そのものといえる「礼拝」。そこで起こされている「出会いと対話」を再考し、そこでの恵みや祝福を再確認していく機会です。参加者、教会の力となることと願っています。宣教研究所所長、朴思郁先生より「礼拝をいきるーへいわの息吹」のテーマものと、「礼拝」とは何か、また「礼拝をいきる」とは何を意味することなのか、「平和」とどう関わりを持つのか、これらの内容で「基調講演」をいただきます。今日における「礼拝者」一人ひとりにとって、大切な学びとなることでしょう。
- 2. 「賛美」奉仕の心得とは？** 礼拝音楽研修会の大切にしてきた「実践」部門では、「ピアノ」「オルガン」「聖歌隊」「指揮」「ギター」「キッズ」とそれぞれ講師が心あつく指導して下さいます。「礼拝」と「会衆」に仕える奉仕者として、実技を通して学び、訓練を受けます。
- 3. バプテストと「礼拝」、「賛美」を学びませんか？** バプテストの大切にしてきた「礼拝」に「信徒の参与」があります。分科会では、信徒が参加できる「礼拝」「教会学校」「子どもと礼拝」「青少年と賛美」「創作賛美歌」「司式」「日本語以外のことばで礼拝する教会」「平和をつくる礼拝」を通して、「礼拝」をつくりあげるものとして学びあいます。
- 4. 「賛美歌のことば」の語り合いの場へ** 『新生讃美歌』を通して、「賛美」について学びあってきました。今回は賛美歌の「ことば」と「神学」をとりあげる「賛美歌ことばのフォーラム」も予定されています。何気なくメロディーにのせて歌えてしまう危うさのある音楽。ここで立ち止まって、あらためてひとつひとつの「ことば」を振り返り、理解をもって心からの賛美を捧げていくための機会となることを願っています。
- 5. とともに「礼拝」と「賛美」をささげる喜び** 天城山荘での研修会の大きな喜びの一つに「ともに」礼拝を捧げる恵みがあります。「協力伝道」に連なる友とたくさんの賜物を喜びあい賛美し、力をいただきます。
- 6. 証しによる励ましあいと祈り** 「全国」研修会の「恵み」に、地方教会での取り組みや、証しを聞きあうことからの励ましがあります。互いの教会を覚え礼拝が支えられるための祈りの輪が広がっていきます。
- 7. 「礼拝をいきる」ことが平和の息吹(はじまり)！** 教会の規模を問わず、それぞれの教会の「礼拝」に、新たな気づきと意識の変化を与えてくれる貴重な出会いの時です。この研修会に参加した一人ひとりに、なにかしらの「礼拝」に関する新たな気づき、意識改革が起こるなら、それぞれの教会に、生き生きとした平和の息吹がもたらされることでしょう。主が必ず新しい変化をもたらしくださるはずです。

研修会に参加するとたくさんの学びと喜びがあります！

～これまでの礼拝音楽研修会の実技分団参加者の声から～



講師の先生方の素敵な指導に触れて

- ◆先生のウィットに富んだ指導で、あっというまに時間が過ぎました。聖歌隊員としてどのように賛美していくかを考え、導かれるときでした。聖歌隊の目的や会衆に仕える姿勢を学ぶことができました。聖歌隊の奉仕に前向きな気持ちになりました。
- ◆聖歌隊員である前に、「教会人」であるということばが印象に残りました。
- ◆キッズの指導方を学びました。どのように子どもたちに指導したらよいか、学ぶことができました。

奏楽者としての心構えを学びました。

- ◆奏楽者の心構え、技術面等、先生のテンポのよいリードのもと、多くを学びました。
- ◆一人ひとり個別指導を通して弾き方や伴奏のアレンジ方法を教えてくださいました。奏楽者として成長したいと願わされました。
- ◆「歌詞」を大切にひくことを、頭に叩き込みました。必ず歌詞を読んで練習します。

具体的に学べて感謝！

- ◆奏楽の実際の音の入れ方など教えていただき勉強になりました。受講生の前で弾くことで、自分の弾き方のよくない点がはっきりわかってよかったです。
- ◆指揮分団一教会での賛美における指揮についてや、会衆賛美をどのようにリードするかを学びました。

これからの奉仕に積極的にとりくんでいきたいです！

- ◆資料をたくさん用意していただき、今後のよい参考資料となります。
- ◆礼拝のあり方は教会で牧師が決めるものだと思っていましたが、みなで話しあって、変化できることを知りました。自分の居心地のよさだけを求めていたように思います。あらゆる年齢、国籍も多い礼拝、みなさんと共につくりあげていきたいと思いました。
- ◆奉仕者、メッセンジャーらが、みことばから共に準備、打ち合わせていきたいです。
- ◆礼拝こそ、この世の違いをこえて、神と人、人と人との和解の現場であることを受け止め、自分の殻から解放され、神様を喜ぶ礼拝から、神を喜ぶ礼拝生活へと遣わされていきたいです。次世代の子ども達にさんびのすばらしさを伝えていきたいです。

毎回、研修会後の皆様の嬉しい表情に触れることは、大きな喜びであり、励ましとなっています。ここから何か新しいスタートが必ずあることでしょう！

♪信徒が参加できるプログラム・分科会のご案内

賛美歌フォーラム（2日目午後） 賛美歌のことばで「意味がわからないで歌っていることがある」「課題に思うものがある」等、声を聞いています。しかし、普段は礼拝準備の時間が十分にとれず、賛美歌について質問したり、話し合う機会がないのではないのでしょうか？ 今回はこれまで、賛美歌のことばの課題で問いをいただいている恵泉教会より代表者一名、奏楽者として、また教会音楽をリードされ、これまでも様々な課題を投げかけてくださっている四日市教会の加藤美代子さん、そして、特別委員会に協力をいただいた『新生讃美歌アンケート』の回答を受け、部落差別特別委員会の片桐健二さんをパネリストとしてお迎えし、発題をいただき課題を共有していきます。その後、フロアーでもグループに分かれて、「賛美歌」ことばが教会をたてあげる言葉となるよう、それぞれの気づきを分かちあっていきます。

ピアノをはじめてみよう 各地で、「やさしい伴奏譜」を用いて、挑戦をはじめた方々の声をきいています。奏楽者になるまでの道のりは長いかもしれませんが、まずは「はじめる」ことでその道は開かれていくことでしょう。音符が読めるようになることからかもしれませんが、そのことを通して、賛美歌の音符への苦手意識が、少しでも取り除かれるのではないのでしょうか。このクラスは奏楽者養成のためだけでなく、次週の礼拝の賛美歌をあらかじめメロディーだけでも弾いて覚えるなど、礼拝の賛美の担い手の皆様にとって、大変有意義なものになると思います。まず「ド」はどこ？ どの指をどうやって使うのか？からはじめてみませんか？教会の奏楽者育成への祈りへとつなげていきたいと願っています。

日本語以外のことばで礼拝する教会 これまで様々な研修会が連盟で開催されてきましたが、この視点での分科会をはじめてではないのでしょうか。準備の段階でも、いろいろな教会の状況があげられ、課題は多岐にわたっています。まずは、出会い、対話をはじめていきましょう。その中で、ほかの言語での賛美を経験したり、さまざまな違いを超えて礼拝する意味を分かちあっていきたいと願っています。また、研修会のプログラムの中で、通訳者をたてることも検討していますので、申し込み時にお知らせください。

青少年の賛美と集会 最近、青少年が企画をする「賛美集会」という言葉をよく耳にします。なぜ「礼拝」ではなく「賛美集会」と言うのでしょうか。そこには、青少年が求める礼拝の形、賛美の在り方が表れているように思います。青少年から、次のような悩みを聞くことがあります。「教会で楽しく賛美をしたいけれど、自分の教会だけでは『仲間』がない」「伝統的な賛美歌は、言葉が難しくてよく分からない。」「新しい賛美を歌いたいけれど、教会で(礼拝で)許してくれない。」また青少年と関わる側にも、「若い人たちに教会で生き生きと賛美をして欲しいけれど、どうすれば良いか分からない」「青少年の歌っている賛美がどんなものなのかよく分からない。どう接したら良いか分からない。」等、悩みがあるように思います。そのような葛藤の中で生まれてきたものが、「賛美集会」ではないかと私は考えています。しかし、「賛美集会」という言葉の定義は曖昧であり、それ故にその目的や方向性、内容は様々です。教会は青少年の「賛美集会」という文化と、どのように関わって(伴走して)いくことができるかを、共に考えたいと思っています。年齢を問わずどなたでもご参加下さい。(分科会リーダー:山下真実)

奏楽者講習会 2016.2. 20 東北連合奏楽者講習会報告

山形教会・東北連合音楽委員 青山祐一

東北連合の奏楽者講習会が、2月20日(土)に仙台長命ヶ丘教会で開催され、講師に山中臨在牧師(浦和)を招き、参加者は4教会13名という中、リラックスして学び、分かち合い、交わりの時となりました。

参加者を奏楽者のみに限定せず、「教会音楽について、興味、関心がある方はどなたでも」と募ったところ、「ピアノは弾けないけれども、お話を聞いてみたい」「ピアノの実技指導を見学したい」という声があり、午前中は講演を中心に、午後は実技を中心に展開しました。

講演の冒頭、「賛美とは？」という問いかけから始まり、「礼拝の奏楽者とは礼拝者であり、神と会衆に徹底的に仕える者」であることが繰り返し語られました。

特に奏楽という音楽に携わる者は、神より自分に栄光を帰す誘惑に常にさらされていること、自分の感情や表現を自由に音楽に乗せ過ぎると、会衆とひとつとなって賛美を捧げる妨げになることを自覚させられ、あらためて謙遜に仕えていく姿勢を学びました。何より礼拝を知ること、賛美歌を知り、学ぶことの大切さを痛感させられたと同時に、いかに歌詞や曲をおろそかに扱ってきたのかを省みる時にもなりました。

実技講習では、参加者はそれぞれに練習、準備してきた曲を実際に披露しました。

他の参加者がそれに合わせて歌うことを通して、気が付いたことを分かち合い、また課題や悩み、曖昧にしていた点などを投げ掛けることで、アドバイスやヒントをいただく機会となり、参加者も理解に進んだように感じています。



当初、「見学だけ」とお話されていた方も指導を受け、大変感謝な時になりました。

参加者からは、山中先生の軽妙で、ユーモアあふれる講演と実技で、「楽しかった」「おもしろかった」

という声はもちろん、「奏楽者だけに限らず、信徒の皆さんに聞いてほしい内容だった」「このような学びの場を今後も設けてほしい」という声が上がリ、今後ともに学び、励まし合う機会を設けられたら・・・と願っています。

地域での講習会開催のススメ

教会音楽室では「奏楽者講習会」や「新生讃美歌に親しむ会」など、2～3の教会が集まって開催する研修会支援しています。今年度は有明教会、水戸教会、多摩川教会、郡山コスモス通り教会、高崎教会において研修会が開催されました。研修会の時間には限りがありますが、共に集っての学びあいが、大きな励ましと力となったとの報告をいただいています。

連盟教会音楽からは講師紹介や、講師謝礼・交通費の一部を補助しています。また、継続できるように、その後も声を掛け合いつつサポートしていきます。

どうぞ！お問い合わせください！

新生讃美歌 217番 緋の衣

小松澤恵（大久保教会・教会音楽専門委員）

この賛美歌は1968年ティモシー・ダドレー スミス Timothy Dudley-Smith によって書かれ、キリストの受難を物語っています。彼は1969年の『ユースプレイズ2』という歌集のためにこの曲を書きました。若い方々に歌われるための願いがあることも覚えておきたいことです。

歌詞は一節を歌うごとに、キリストの受難の場面が一コマずつ進んでいくように書かれていて、これを賛美する礼拝者は、十字架の出来事のただ中に自分が置かれ、その場面の一部に入り込んだような感覚を覚えることができます。レントの季節を過ごしている私たちは、キリストの受けられた十字架の苦しみを覚え、その出来事が他でもない、この私の命を贖うための出来事だったことを心に刻みたいと思います。

賛美歌を一節、一節歌いながら、主が歩まれた十字架への悲しみの道(ドロローサ)を思い、共に痛みを覚えながら自分も主イエスと歩いているように想像しながら歌ってみてください。そしてそのようにご自分の命を捧げられた主の御足の跡に従う者として、「いかに今を生きるのか」を自分自身に問いつつ、主にならって隣人のために生きる者へと変えられていきたいと願います。

★作詞者

Timothy Dudley-Smith (1926 イギリス生まれ-)

11歳～12歳のときに、神さまから召命を受け、1950年、英国教会(聖公会)の司祭となりました。その後、彼は司祭の職にとどまらず、たくさんのところでさまざまな主のための働きを担いました。その中で賛美歌の出版なども手掛け、賛美歌を通して現代に必要なメッセージを届けています。「キリスト教会の主よ」(363番)もその一つで、『新生讃美歌』の中でも大変親しまれています。

『皆の心を引き上げて』という本の中で彼はこう語っています。

「賛美歌を書く目的は私が司祭として働く献身の証しで、私に委ねられた人びとが神の言葉を受け取るためのものだった。この本(聖書)を受け取りなさい。ここには永遠の命に至る言(ことば)が書かれています。そしてこれをあなたの人生のガイドとして持ち続け、世にむかってこの聖書の言(ことば)を高らかに宣言しなさい。』」 賛美歌創作の姿勢から、賛美するものの姿勢を学ばれます。

★作曲者

William Vincent Wallace (1812 アイルランド- 1865 フランス)

スコットランド人の先祖をもち、初期の音楽教育を父から受け、パガニーニを聞いて影響を受け、バイオリンを学び始めました。ダブリンにて15歳のときにコンサートデビューし、オーストリア、ニュージーランド、インド、南米、英国、メキシコなど世界各地を旅しました。オペラをはじめ、カンタータや賛美歌なども作曲しました。晩年は視力が衰えたためピレネー山脈で静かに過ごしました。

イースター 『新生讃美歌』 賛美歌解説

新生讃美歌 247番 輝きのこの日

森洋子（函館美原教会・教会音楽専門委員）

原題：“Erschienen ist der herrlich Tag”は、1560年頃 Nikolaus Herman ニコラウス・ヘルマンによって作詞、作曲された賛美歌です。J.S.バッハなど、ドイツのバロック期の作曲家によるオルガン用の前奏曲や小品へのアレンジが多く残されていますので、メロディをご存知の方も多いことと思います。

タイトルを逐語訳するならば、「現われた、輝く素晴らしい日が」となるかと思います。イエスのよみがえりが、他に比べようもない素晴らしい出来事である、という大きな喜びが「Erschienen ist…現われたのだ」という言葉に表わされています。各節の最後は「ハレルヤ」が、鳴り響く鐘のように繰り返され、喜びが私たちのあいだに充ち満ちてくるような賛美歌です。

さて、オリジナルは14節まである長い歌詞です。少しその内容に触れてみますと、例えば、3節から6節では、福音書に記されたイエス・キリストの復活の物語が表されています。3節：三人の女性がイエスの葬られた墓に行く、4節：「誰を捜しているのだ、イエスはよみがえられた」と墓で天使が告げ、女たちは弟子に伝える、5節：弟子たちは恐れるが、それは過ぎ去り、今は喜びのみがある。悲しみも不安も過ぎ去ったのだ、6節：イエスは親しく二人の弟子と語らう。イエスがパンを裂かれた時、彼らの心は燃やされた、そして、7節、8節は旧約聖書のサムソン、ヨナの物語が歌われ、9節「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。命は死に勝利する」という、パウロの言葉が挟まれた後、10節から12節では出エジプトの物語が歌われます。そこから、過越の小羊として血を流されたイエスが想起されるのです。

この曲が作られた当時、大半の民衆は字を読むことが出来ませんでした。また、聖書は大変高価で貴重なものでしたから、現代のように、一人一人が聖書を手に礼拝に集うということはありませんでした。そのため、会衆は、聖書の言葉、メッセージを歌うことによって聞き、また、声を出して歌うことで、その言葉を自らの糧としていったのではないのでしょうか。

尚、メロディは短音階のように聴こえますが、ドリア調という、古くから使われている教会旋法によるものです。ドリア調は厳粛、平安、高貴さなどを表わすとされた旋法です。この曲の落ち着いた旋律は、まず、イエスさまの復活が神さまのみわざであるという告白として感じ取ることが出来るのではな

聖歌隊楽譜—新譜紹介

247 輝きのこの日

詞・曲:Nikolaus Herman
編曲:Mikako Ehara

Con fuoco (♩=140) simile

1.かがやきのこの日よろこびいわんわんわ
2.つみと死のなわめなげきとくなんを
14.が主キリスダキアに勝れせりハ
18.レ ル ヤ ハレルヤ ハレルヤ

©2016 日本バプテスト連盟

左頁に紹介された247番「輝きのこの日」の聖歌隊楽譜(新譜)をご紹介します。イースターにふさわしい賛美歌ですが、その後でも賛美できますので、ご活用ください。

左の解説ではドリア調の特徴が紹介されていますが、この編曲では、宗教改革のルターに影響を受け、ヘルマン自らがコラールを作词作曲したこと、また、会衆が賛美に参加に加えられた意味を覚えつつ、復活の喜びを力強く表現しました。1、2番はユニゾン、3番はメロディーとオスティナート(簡単なフレーズの繰返し)、4番は輪唱、5番はユニゾンと、比較的歌いやすいものです。力強く復活の喜びを歌いましょう。

1セット(10部) 400円

日本バプテスト連盟のホームページの注文書にてお申込みください。

教会音楽ニュース

『新生讃美歌CDROMバージョンアップ』が新機能をあらたに加えて、この夏、販売予定です。

音の高低や速度変更可能な機能を加え、『新生讃美歌CDROMバージョンアップⅡ』(仮称)の販売準備を進めています。また、礼拝式順で賛美歌を選び順番にし、伴奏ボタンをクリックするだけで演奏をスタートさせる機能も入ります。これまでのことばの検索、聖書引用賛美歌の検索に加えて項目索引による検索も可能となります。来年度夏には販売を予定していますので、どうぞご期待ください。なお、アプリも検討しましたが、諸事情により、CDROMのバージョンアップの形をとりました。近くなりましたら注文書等ご案内いたします。

『新生讃美歌』参考資料集——『新生讃美歌ブックレット』の作成がはじまります。

賛美歌検討委員会議のこれまでの取り組みや、昨年の「中間報告書」のご紹介、また、『新生讃美歌』をさらに使いやすくするための資料を載せた、『新生讃美歌ブックレット』発行にむけて準備がはじまりました。以下の内容で、これまでの『新生讃美歌』内でお気づきの点などございましたら、ご意見をお寄せください。

- 解説の必要なことば
- 文語調で分かりにくいもの
- 「ことば」の課題
- 歌い方の質問
- 使用方法の質問
- 演奏・伴奏方法の質問
- ほか 何でも ⇒ehara@bapren.jp, FAX 0488831092

第12回全国礼拝音楽研修会ご案内

日程・費用等

日 程 : 2016年5月4日(水)～6日(金)

◆3日の憲法記念日の集会と5日の交通の混雑を避けるために最終日は平日としました。

場 所 : 天城山荘 静岡県伊豆市湯ヶ島2860-1

テーマ : 「礼拝をいきるーへい^{いぶき}わの息吹」

聖 書 : 創世記2章7節

参加費 : 成人 27,000円 (26歳以上、宿泊・食費18,000円、登録費9,000円)

青少年 15,000円 (中学生～25歳まで、※成人参加費から1万2000円の割引)

小学生、幼児 15,000円 (宿泊、食費・登録費含む)

※交通費の補助 交通費が2万円以上の方には、交通費補助があります。

申し込み締め切り 3月28日(月) イースターの翌日です。

	4日(水)	5日(木)	6日(金)
9:00		朝食	朝食
		朝の礼拝 (証しと賛美)	わかちあい (小グループそして全体へ)
10:00		実技分団	閉会礼拝
11:00		分科会 I (休憩)	
12:00		昼食	※実技分団は1つのみ選択 ※分科会は午前と午後と 2つの分科会を選択
13:00		休憩	
14:00	受付	賛美歌 ことばフォーラム	パネルディスカッション形式 初めての「ことば」フォーラム
15:00	開会礼拝		
16:00	基調講演	実技分団	分科会 II
17:00	質疑応答 分団顔合わせ、分科会紹介		
18:00	夕食	夕食	
19:00	休憩	休憩	
20:00	新生讃美歌を歌おう!	(礼拝のそなえの時) みんなで礼拝をつくろう	青少年と子どもと一緒に
21:00	楽しいひととき		

◆部分参加も可能となっております。参加費については、お問い合わせください。

◆分科会 I と II の午前午後のスケジュールは人数調整後決定します。